

第7回高島市マキノ小学校開校準備協議会 会議録（要旨）

- 1 開催日時 令和7年8月21日（木）
開会 午後7時30分 閉会 午後9時00分
- 2 開催場所 マキノ土に学ぶ里研修センター 2階集会室
- 3 会議次第
 - 1.開会
 - 2.準備協議会長あいさつ
 - 3.今城市長あいさつ
 - 4.協議事項等
 - (1)第6回会議の振返りについて
 - (2)マキノ小学校の新校舎の使用開始時期の遅れについて
 - 5.川島教育長あいさつ
 - 6.閉会
- 4 出席委員 21名（欠席者2名）
- 5 事務局出席者
今城市長、川島教育長、饗庭教育総務部長、川原林教育指導部長、保木教育指導部次長、前田教育総務課長、保木学校教育課長、上原学事施設課長、古川学校教育課主監、古谷学事施設課参事、林教育総務課参事
- 6 会議を傍聴した者 6名
- 7 次第の経過 次のとおり

次第の経過

1.開会

2.会長あいさつ

3.今城市長あいさつ

4.協議事項等

(1)第6回会議の振返りについて

【説明】 林教育総務課参事

資料1（1～6ページ）により説明。会議開催日翌日の8月22日にマキノ地域に準備協議会だより第5号が全戸配布されることを報告した。

(2)マキノ小学校の新校舎の使用開始時期の遅れについて

【説明】 川島教育長、上原学事施設課長

資料2（7～9ページ）、別冊資料により説明。はじめに、川島教育長から新校舎の使用開始時期が令和10年4月には間に合わない見込みであることに對し謝罪した。また、令和10年4月に3小学校を統合することに変更はないが、新校舎が出来るまでの期間、現在の3小学校の内1校舎を仮校舎として使用する対応策を検討することについて報告した。

次に、上原学事施設課長から工期の見通し、新校舎完成までの対応策、予算措置、今後の進め方について説明した。

工期については、新校舎の構造を全て鉄筋コンクリート造とした場合は令和10年9月使用開始予定となり、躯体を鉄筋コンクリート造、屋根を木造とした混構造の場合は令和11年1月使用開始となる見込みである。

新校舎完成までの対応策としては、マキノ西小かマキノ南小のどちらかを仮校舎として活用する予定であり、必要な安全点検等を行う予定である。

予算措置については、令和7年度当初予算で基本設計実施設計に要する費用を見込んでいたが、令和7年度中に完成する見込みが立たないため、令和7年度と令和8年度の2箇年にわたる予算執行の措置を、9月に開催される高島市議会定例会に提案する予定である。

今後の進め方については、本協議会終了後、現在こども園に通う年少から年長の園児の保護者、小学校に通う1年生から3年生までの児童の保護者を対象に8/31（日）、9/3（水）の2日間説明会を開催し、校舎使用開始の遅れに対する謝罪と今後のスケジュールについて説明を行う予定である。

【質疑等】

問. 校舎に木をふんだんに使うことによるメリットはなにか。補助金が受けられるということだけか。

答. 子どもたちが木のぬくもりを感じて豊かな心を育む教育が受けられるということを第一に考えている。

問. 配布されたスケジュールでは「基本設計策定」が令和7年8月からとなっているが、

元々8月に策定する計画であったのか。

答. 当初の予定では令和7年4月ないし5月早々に策定する計画であったが、可能な限り木材を使用した校舎づくりを進める事についての内部検討、校舎の建築について一旦立ち止まるべきではないかという請願書が市議会に提出されるなど、十分な検討が必要となることが重なったことからスケジュールに遅れが生じた。

問. 木造校舎ならではのメンテナンスは必要か。

答. 現在把握しているのは、完成してから2年間ほど木材を繋ぎ合わせているボルトの増し締めを実施しなければならないと思っている。これ以外にも対応すべき措置が必要だと判明した場合は実施させていただく。

問. 50年ぐらい新校舎を使用すると思うが、鉄筋コンクリート造と木造とでランニングコストはどのくらい違ってくるのか。

答. ランニングコストに大きな差はないと考えている。

問. 現校舎から仮校舎への引っ越し、仮校舎から新校舎への引っ越しと2回引っ越しが必要との説明であったが、低学年や特別支援学級に在籍する子どもたちにとってはかなりの負担・ストレス・不安材料になる。統合の時期をずらすといった考えはないか。

答. 一刻も早く統合して欲しいという声があるため、最速での統合を計画しているが、後に開催する保護者説明会での意見によっては当然考慮しなければならないと考えている。

問. 仮校舎として現存する校舎を使用するのであれば、可能な限り早く統合してはどうか。

答. 教育課程や教員の人事、校歌等開校に向けての準備、スクールバス等様々なことを考えると令和10年4月の統合が最速と考えている。ただ、いち早くたくさん子どもたちの中で学べる環境を作ってあげたいという思いもあるので、来年度から3小学校の交流する機会をこれまで以上に多く取れるよう教育委員会事務局としても支援していきたいと考えている。

【意見】

- ・これから先、大人の都合でスケジュールを遅らせることが無いように子どもファーストで考えていただきたい。
- ・新校舎完成まで一旦西小か南小に引っ越しをして、新校舎完成後もう一度引っ越しをするという説明であったが、子どもたちの立場に立つと環境の変化が大きく中々落ち着かない感じになるのではないかと心配する。
- ・鉄筋コンクリート造であれ木造であれ、勾配のついた屋根形状とすると雪の多い地域であるため非常にリスクとなる。他校で屋根から落ちた雪が吹き飛んで渡り廊下の雪囲いを突き破ったことがあった。通学時や休み時間に中学生、小学生が新校舎の周りを通ることもある。防災の面や避難経路の確保等安全の視点を持っていただくことが大事だと思う。

- ・木製の建具は非常に高価で綺麗なものであり、またボールが当たると外れたり壊れたりすることがある。そのため体育館ではバレーボールやフットサルといった球技を実施出来ず、日常生活も気を遣って過ごしている。内装木質化により、子どもたちの活動が制限されることは避けていただきたい。そういったことを前提に内装木質化を考えていただきたい。
- ・仮校舎をどこにするかについては、建築年数が古い新しいということだけではなく、使い勝手の良さや改修のしやすさ、利便性等も検討材料として取り入れていただきたい。

5.川島教育長あいさつ

6.閉会